

令和8年3月17日

山元町議会議長 伊藤 貞悦 殿

派遣議員 丸子 直樹 渡邊千恵美 菊地 康彦  
品堀 栄洋 大和 晴美

### 議員派遣結果報告書

全国町村議会議長会主催の「令和7年度町村議会広報クリニック」に出席しましたので、その結果を下記のとおり報告します。

#### 記

- 1 期間 令和8年2月20日（金）13：00～16：30
- 2 用務 全国町村議会議長会「令和7年度 町村議会広報クリニック」
- 3 内容 「広報マインドと伝わる議会報づくり」  
講師 （一社）自治体広報広聴研究所  
代表理事 金井 茂樹 氏

#### 4 研修概要

議会広報の理念・目的・改善方法に加え、実際の各自治体広報誌を用いた具体的な評価・改善提案が行われた。特に、広報活動の基本軸である「誰が、何を、どのように伝えて、どうなってもらいたいのか」という理念が繰り返し強調され、住民の認知・関心・理解・納得・参画へとつなげる“行動変容型広報”の重要性が示された。

また、後半の広報クリニックでは、各自治体の紙面を題材に、次のような改善点が指摘された。

- (1) 議案や一般質問に関する背景説明の不足
- (2) 紙面構成の流れが弱く（課題→対応→効果が不明瞭）理解につながりにくい点
- (3) 見出しが抽象的で、読者の関心を引きにくいこと
- (4) リード文の欠如による“記事の入口”の弱さ

(5) 写真の水平・垂直、情報性の不足

(6) 余白不足による“窮屈な誌面”

特に「議案審議・一般質問」では、背景→内容→意義という3要素をセットで示すことが住民理解に不可欠とされ、千代田町のように“住民の声→政策提案”の流れを誌面で明示した事例が高く評価された。

## 5 まとめ

広報において最も重要なのは“目的の明確化”であり、今回提示された「誰に・何を・どのように・どうなってほしいか」という理念は、誌面づくり全体の判断基準として極めて有効であると改めて感じた。

また、クリニックで示された具体的指摘から、無関心層が多い町村議会においては、読みやすさ・視認性・情報の順序性を重視した紙媒体の改善が特に重要であることを実感した。背景説明、リード文、見出し、写真の質、余白の確保など、細部の積み重ねが“伝わる広報”につながると再認識した。

本研修で得た知見を基に、「伝える広報」から「行動につなげる広報」へと意識を転換し、住民の理解と信頼を高める広報活動を今後さらに推進していきたい。